法律相談 R4 31

鹽竈神社を参拝して

髙橋 司 たかはし・つかさ

弁護士。1963年生まれ。北海道大学大学院法学研究科修了。「髙橋・日浦法律事務所」代表。

平成30年4月下旬のゴールデンウィークのころから何度か仕事で宮城県に通い続けていた。仙台駅から20分ほどで着く下馬駅で電車を降りて打ち合わせを続けていた。その間、下馬駅から塩釜市が近いということを知り、3ヶ月ほど通い続けた出張も終わることが決まり、私は、以前から何とか参拝したいと願っていた鹽竈神社に参拝した。

名古屋市など全国的に数ある鹽竈神社の総本社が塩釜市の鹽竈神社である。その名前からうかがわれるとおり、鹽竈神社は塩を作る方法を教えた神様が鎮座する神社である。この神社の東側に七曲坂という最古の参道があるが、ここを塩土老翁神が通られたという言い伝えがある。日本書紀に記載された天孫降臨の神話として、高千穂の峰に降り立った二ニギが笠狭崎（現在の鹿児島県川辺郡）に至った時に登場する神が塩土老翁神である。この神が武甕槌神と経津主神を先導してこの地に降り立ったという神話がある。同じ日本書紀には、この塩土老翁神が神武天皇に対し、東によい土地があると進言し神武天皇が東征を決意したとも言われていることから、その後、神武天皇の決意のもと、塩土老翁神が上記2人の神を先導して鹽竈に下り立ったのであろう。当然、鹽竈神社は陸奥国で一番社格の高い神社（一の宮）である。

作家高橋克彦さんの小説に、「火怨」という小説がある。とても読み応えがある小説で、平安時代初期に実在したとされる蝦夷の軍事指導者・アテルイが描かれている。大和朝廷は蝦夷との境界とされた地域に多賀城を築城し、そこを陸奥の国の国府と定めたが、この多賀城の鬼門の方向に鹽竈神社がある。つまり、陰陽道の鬼門の考え方に基づき、国府である多賀城を蝦夷から守るために鹽竈神社が建立されたのである、

鹽竈神社を参拝して分かったことであるが、別宮に祀られている塩土老翁神だけではなく、鹽竈神社には左宮や右宮があって、武甕槌神が左宮に、経津主神が右宮に祀られている。そこで、この2人の神を調べてみると、いずれも出雲の国譲りの神話にも出てくる高天原随一の武の神であることが分かった。

このことを知ったとき、私は大和朝廷の蝦夷を平定するという目的に対する並々ならぬ強い意志を感じた。国譲りの神話に出てくる神を東征に動員しているからである。

さて、製塩方法を教えた塩土老翁神が別宮にて主祭神とされているからなのか、鹽竈神社は全国中のパワースポットの中でも浄化作用が高い神社とされている。特に、通称、「男坂」と呼ばれる202段の石段を登ると心身ともに浄化されてパワーが付くと言われているが、当日、私は18キロほどの荷物を持って移動していたので諦めざるを得なかった。当日は、とても暑い日で荷物をどこかに預かって貰っていたとしても石段を駆け上がることはできなかったと思う。

現代版として出版されている古事記や日本書紀を購入して読んでみてもなかなか頭に入らないことが多い。しかし、このように出張の折りにその地の神社仏閣を参拝して神話を学ぶ機会を得ると、本当に我が国の文化の奥深さを感じる。鹽竈神社も1200年以上にもわたる文化をこの地に形成・伝承し、いまなお、その神話が語り継がれている。

高校時代は大学受験のこともあり、明治維新以後の記述を先行的・重点的に学ぶべきだとの意見があった。受験という枠組みの中でのみ考えるのであれば、正しい意見なのかもしれない。しかし、大人になって我が国の歴史を学ぶと、縄文時代や弥生時代における文化の深さには驚くことが多く、数多くのことを学ぶことができる。我々日本人がよりよきアイデンティティーを構築するためには、このような我が国の歴史に思いを馳せることがとても大切だと思っている。そうすれば、明治維新後に我が国の公用語を日本語から英語に変更するという愚かなことを考える大臣も出てこなかっただろうし、廃物毀釈などというお馬鹿な動きを政府が事実上先導するということもなかったであろう。そういう意味で明治維新は文化にそれほど造詣が深くない下級武士を中心とするクーデターだったのであろうと思う。